

科目名	デッサン実習1							年度	2025
英語科目名								学期	前期
学科・学年	マンガ・アニメーション科	アニメーションコース	1年次	必／選	必	時間数	60	単位数	2
担当教員	中田和彦、岩崎拓也			教員の実務経験		有	実務経験の職種		画家

#### 【科目の目的】

素描(デッサン)に於ける「ものの見方、表現方法」の基礎的な知識・技術を習得し、的確に描画できる実力を備える。

#### 【科目の概要】

素描(デッサン)に於ける「ものの見方、表現方法」の基礎的な知識・技術を習得し、的確に描画できる実力を備える。

#### 【到達目標】

描画材料の使用法に始まり、素描の基礎の基礎から学ぶ中で、癖なく、正しい素描の表現を出来るようになる。  
次年度の応用へ向けて基礎的な描写力を備え、知識・技術を学ぶだけでなく完成まで描き切れる集中力の持続力も備えられるようになる。

#### 【授業の注意点】

授業開始時に実技のポイントなどを説明するので遅刻厳禁。クロッキー帳、鉛筆、練り消しゴムは毎回持参すること。課題作品はできるだけ授業時間内で仕上げるように留意すること

#### 評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	構図を決め、あたりを付け、形をとる事が優れている		構図を決め、あたりを付け、形をとる事が出来ている		構図を決め、あたりを付け、形をとる事が出来ていない
到達目標 B	鉛筆の硬さ、柔らかさを理解し、質感や明度に合わせて使い分けが優れている		鉛筆の硬さ、柔らかさを理解し、質感や明度に合わせて使い分けを理解している		鉛筆の硬さ、柔らかさを理解し、質感や明度に合わせて使い分けが出来ていない
到達目標 C	石膏や、ガラス等質感を理解し、質感の表現が優れている		石膏や、ガラス等質感を理解し、質感の表現が出来ている		石膏や、ガラス等質感を理解し、質感の表現が不足している
到達目標 D	グラデーション、陰影の表現の理解し、描く事が出来る		グラデーション、陰影の表現の理解が出来ている		グラデーション、陰影の表現の理解が不足している
到達目標 E	スケールを使用し、形や大きさを正確に捉える能力が優れている		スケールを使用し、形や大きさを正確に捉える事が出来ている		スケールを使用し、形や大きさを正確に捉える能力が十分ではない

#### 【教科書】

必要に応じて授業にて資料配布を行う

#### 【参考資料】

必要に応じて授業にて資料配布を行う

#### 【成績の評価方法・評価基準】

課題 80% 課題の完成度、レベル、理解度を総合的に評価  
授業態度 20% 作品制作への積極性を評価

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		デッサン実習1			年度	2025
英語表記					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル		評価方法 自己評価
1	グラデーション	グラデーションを理解する	濃淡の付け方	様々な濃さの鉛筆を区別できる		3
			鉛筆の選び方			
2	立方体の形態	立方体の形態、陰影	立方体の陰影	立方体の形態、陰影を的確に描けるようになる		3
			立方体の陰影			
3	ブロックの形態、陰影、質感	ブロックを描ける	ブロックの形態	ブロックを的確に描けるようになる		3
			ブロックの陰影			
			ブロックの質感			
4	球体の形態、陰影	球体を描ける	球体の形態	リンゴを描くことが出来る		3
			球体の陰影			
5	円柱の形態、陰影	円柱を描けるようになる	円柱の形態	円柱を描けるようになる		3
			円柱の陰影			
6	空き缶の形態、陰影、固有色、質感、レタリング	空き缶を立体的に描く	空き缶の形態	金属を描ける		3
			空き缶の陰影			
			空き缶の固有色			
7	ティッシュ箱の形態、陰影、固有色、質感、レタリング	BOXティッシュを立体的に描く	ティッシュ箱の形態	長方形を立体的に描く		3
			ティッシュ箱の陰影			
			ティッシュ箱の固有色			
8	カボチャの形態、陰影、固有色、質感、レタリング 1	カボチャを描く	カボチャの形態	ラフのボチャを描く		3
			カボチャの陰影			
9	カボチャの形態、陰影、固有色、質感、レタリング 2	カボチャを描く	カボチャの固有色	立体を考えながら完成させる		3
			カボチャの質感			
10	ワイングラスの形態、質感	透明感を表現できる	ワイングラスの形態	質感・透明感の表現ができる		3
			ワイングラスの質感			
11	手の骨格、筋肉	人物の人体を描く	手の骨格	手を立体的に描くことが出来る		3
			手の筋肉			
12	目鼻口描く	目鼻口を拡大描写	目鼻口を拡大描写し描く	目鼻口を拡大描写し描ける		3
13	顔を描く	顔を立体的に描く	人間の顔を描く	顔の表情を精密に描くことが出来る		3
14	自画像を描く	人物の自画像を描ける	特徴を捉えて描写	人物の特徴を観察し描写する事が出来る		3
15	まとめ	各講義の復習と補講	1-14回までの復習			3
			補講	各講義の補講を行い問題点を解決する		

評価方法 : 1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価 : S : とてもよくできた、A : よくできた、B : できた、C : 少しうまくなかった、D : まったくできなかった

備考 等